

エシカル甲子園

～私たちが創る持続可能な社会、そして今できること～

2020



エシカル甲子園

～私たちが創る持続可能な社会、そして今できること～

2020

ライブ
配信は
こちら



徳島グランヴィリオホテル 日時 令和3年3月26日(金)

〒770-0941 徳島県徳島市万代町3丁目5-1 時間 9時30分～15時30分

本選出場校

- 北海道・東北ブロック 宮城県農業高等学校
- 関東ブロック 栃木県立栃木農業高等学校
- 甲信越・北陸ブロック 福井県立若狭高等学校
- 東海ブロック 愛知県立南陽高等学校
- 近畿ブロック 大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程
- 中国ブロック 広島市立広島商業高等学校
- 四国ブロック 愛媛県立松山北高等学校
- 九州・沖縄ブロック 博多女子高等学校
- 開催県 徳島県立阿南支援学校
- 審査委員特別校 佐賀県立伊万里実業高等学校

次点校

- 北海道・東北ブロック 仙台市立仙台商業高等学校
- 関東ブロック 埼玉県立皆野高等学校
- 甲信越・北陸ブロック 長野日本大学高等学校
- 東海ブロック 静岡県立富岳館高等学校
- 近畿ブロック 兵庫県立松陽高等学校
- 中国ブロック 金光学園高等学校
- 四国ブロック 愛媛県立南宇和高等学校
- 九州・沖縄ブロック 長崎県立五島高等学校
- 開催県 徳島県立城ノ内高等学校

主催：徳島県教育委員会 徳島県

後援：消費者庁 文部科学省 日本エシカル推進協議会
 ESD活動支援センター 四国地方ESD活動支援センター
 消費者教育支援センター 徳島新聞社 NHK徳島放送局
 四国放送 ケーブルテレビ徳島 エフエム徳島 徳島大学
 鳴門教育大学 徳島文理大学 四国大学



エシカル甲子園 2020

CONTENTS

イメージマップをつくろう	2
日 程	3
開催によせて	4
審査委員会委員紹介	5
発表順 時間帯・発表方法	7
宮城県農業高等学校	8
博多女子高等学校	10
徳島県立阿南支援学校	12
広島市立広島商業高等学校	14
福井県立若狭高等学校	16
愛知県立南陽高等学校	18
愛媛県立松山北高等学校	20
大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程	22
佐賀県立伊万里実業高等学校	24
栃木県立栃木農業高等学校	26
仙台市立仙台商業高等学校	28
埼玉県立皆野高等学校	29
長野日本大学高等学校	29
静岡県立富岳館高等学校	30
兵庫県立松陽高等学校	30
金光学園高等学校	31
愛媛県立南宇和高等学校	31
長崎県立五島高等学校	32
徳島県立城ノ内高等学校	32
交流タイム	33
表彰概要	34
協力校等紹介	35
「エシカル甲子園 2020」参加校データ	36
今後の活動に向けてのアドバイス	37
アンケートのお願い	38

③ 本選の発表や交流会を通して
あらたに気づいたことをメモ
したり加えたりしよう！

② 書き出した言葉の周りに、その言葉
が関連する活動内容や活動場所を
書いてさらに線でつないでみよう！

① エシカル消費から連想する言葉
を書き出して『エシカル消費』と
線でつないでみよう！

エシカル消費

エシカル甲子園2020

～私たちが創る持続可能な社会、そして今できること～

■ 日 時 令和3年3月26日(金) 9:30 ~ 15:30

■ 会 場 徳島グランヴィリオホテル

■ 概 要 エシカル消費の推進に向けた取組について、「WITHコロナ」の今だからこそ、高校生等のしなやかな感性と発想で「新しい生活様式」を踏まえてできる実践を募集し、特に優れた取組発表について表彰する。

■ 次 第	時 間	内 容
	9時30分～	開会行事 主催者挨拶 来賓挨拶 出場校紹介 審査委員紹介
	10時～	発表(前半)
	12時～	昼食
	13時～	発表(後半)
	14時10分～	交流タイム
	15時～	閉会行事 結果発表 表彰 講評 主催者挨拶 写真撮影





消費者庁長官
伊藤 明子

人や社会環境等に配慮した消費行動、すなわちエシカル消費は、世界的に取組が進められている持続可能な開発目標、いわゆるSDGsのうち、主に12番目の目標「つくる責任 つかう責任」を消費者サイドから表したものであり、まさに未来志向の取組の一つです。

今年度は特に、コロナ禍によって、自身の消費が社会・世界と繋がっていること、そして、未来や他者のための行動が最終的には自分に返ってくることを多くの方が体感し、「今だけ・ここだけ・自分だけ」の消費からの転換となった1年でした。

消費者庁では、新たな恒常的拠点として昨年7月に、徳島に消費者庁新未来創造戦略本部を設置しました。今後も戦略本部の機能も活用しながら、新たな時代にふさわしい未来志向の消費者行政を推進していく必要があると認識しています。

今回が2回目の開催となるエシカル甲子園には、全国から87もの高校等から御応募いただいております。未来を担う当事者として、皆さん自身が熱心に取組を進められていることを大変心強く感じています。

本日は、「エシカル甲子園2020」にご参加いただき、ありがとうございます。新型コロナウイルスの影響で、様々なイベントが中止・延期を余儀なくされる中、関係の皆様のご尽力により、本大会を開催できますことに、厚くお礼申し上げます。

今回は、「WITH コロナ時代」に相応しく、「リアル」と「オンライン」で開催するとともに、その様子はライブ配信により、どなたでもご覧いただけます。

現在、地球温暖化による気候変動はじめ、プラスチックごみによる海洋汚染、食品ロスの増加など、地球環境や社会の持続可能性が問われる中、その解決には、SDGs（持続可能な開発目標）12番目の目標「つくる責任、つかう責任」の達成に向けた「エシカル消費」の推進が求められております。

日本初の「G20 消費者政策国際会合」や本県発祥の「エシカル甲子園」など、新次元の消費者行政・消費者教育を展開する徳島から、未来を担う高校生たちの取組を全国に発信し、「エシカルの輪」を一層広めて参ります。



徳島県教育委員会教育長
榑 浩一

徳島県では「徳島教育大綱」を策定し、基本方針である「未知の世界に果敢に挑戦する、夢と志あふれる『人財』の育成」に向け、「徳島ならではの特色あふれる未来志向の教育施策を推進しているところです。

消費者教育においても、国際社会の共通の目標であるSDGsの達成に向け、県内全ての公立高校にエシカルクラブを設置し、地域や学校の特色を生かした取組をするなど「新次元の消費者教育」を推進しています。

徳島での取組を全国に広げ、県内外のエシカル消費に取り組む皆さんが、その成果を発表する機会として「エシカル甲子園」を開催したところ、昨年度は70校、今年度は87校の参加申込と、着実に持続可能な社会創りを担う若者の輪が広がっていると感じます。

今年度、本選の様子はライブ配信されます。是非多くの方に視聴していただき、日本全体を「持続可能な社会」へと導いていく「人」の繋がりがより一層拡大していくことを期待しています。



徳島県知事
飯泉 嘉門



委員長

- 東京都市大学名誉教授
- 日本エシカル推進協議会会長
- 地球環境戦略研究機関 IGES シニアフェロー
- 国連環境計画 UNEP 持続可能な公共調達 (SPPI) アドバイザー

中原 秀樹 氏

comment

エシカル消費、SDGs、環境問題等、コロナ禍にも関わらず、多様な分野の取組を高く評価するとともに、審査員泣かせの素晴らしい活動報告であったと評価します。



副委員長

- 四国大学短期大学部ビジネス・コミュニケーション科教授
- とくしまエシカル消費推進会議会長
- 2017年消費者支援功労者表彰 (内閣府特命担当大臣表彰) 受賞
- 専門は「消費者教育」「ライフプランニング」

加渡いづみ 氏

comment

持続可能な地域づくりに向けて、各校の強みと独自性を活かした取組と、多様な組織との連携実現に強く感銘を受けました。



委員

- エシカル・ペネロープ 株式会社 代表取締役
- 日本フェアトレード・フォーラム (FTOFJ) 代表理事
- NPO 法人フェアトレード名古屋ネットワーク (FTNN) 理事
- 日本エシカル推進協議会 (JEI) 理事

原田さとみ 氏

comment

自分達の住む地域の課題を自ら感じて、調査し、未来を想うエシカルなアクションを生み出す皆さんに、温かい思いやりを感じます。



委員

- 一般社団法人エシカル協会
- 日本ユネスコ国内委員会広報大使
- 日本エシカル推進協議会理事
- 「はじめてのエシカル」(山川出版社)

末吉 里花 氏

comment

自分たちの暮らしと自然や世界との繋がりを包摂的な視点で捉え、課題解決に取り組む高校生たちは真の変化の担い手だと感じました。



委員

- 公益社団法人消費者関連専門家会議 (ACAP) 専務理事
- 元キリン株式会社お客様相談室室長
- 独立行政法人国民生活センター特別顧問 等を歴任
- 消費者庁消費者教育推進会議委員

坂倉 忠夫 氏

comment

エシカルを自分ごととしてとらえ、地域性・専門性を活かした地域密着の取組、コロナ禍での工夫した取組に感銘を受けました。



委員

大山 みこ 氏

- (一社)日本経済団体連合会(経団連)ソーシャル・コミュニケーション本部上席主幹
- 経団連会長政策秘書、経済政策、ダイバーシティ政策、政治との連携強化等に従事
- コロンビア大学大学院修了、経団連米国代表、米国CSIS 客員研究員
- 国際イメージコンサルティング・オフィス「CATCHY」を設立

comment

社会的インパクトに繋がりが得る商品開発や地域参加型の活動等、人々をinspireし行動変容に繋がる具体的な活動が数多く見られました。



委員

島田 広 氏

- 弁護士(福井弁護士会)
- 文部科学省消費者教育推進委員会委員、同省消費者教育アドバイザー
- 日本エシカル推進協議会理事
- 消費者教育推進会議委員など歴任

comment

コロナに負けないパワフルでユニークな取組が多かった。SNSを活用した発信力も素晴らしい。高校生の力が世の中を変えると実感。



委員

藤田さつき 氏

- 朝日新聞オピニオン編集部記者
- 2000年朝日新聞社入社大阪社会部、東京本社くらし報道部等を経て現職
- 近年は消費社会や家族のあり方などを取材
- 「大量廃棄社会アパレルとコンビニの不都合な真実」(仲村和代、藤田さつき/著)

comment

コロナ禍で活動が限られる中、乗り越える創意工夫や、必要とされる情報や感染対策は何か、真摯に向き合う姿が素晴らしいかったです。



委員

河井 貴志 氏

- NHK 徳島放送局 副局長
- 徳島市社会教育委員会 委員
- スポーツ王国とくしま推進会議 委員
- 徳島行政監視行政相談センター 行政懇談会 委員

comment

全国に眠っている素材がたくさんあることに感心しました。その素材を掘り起こし、生徒達が新たな活路を見出すべく知恵を絞っている様子が感じられました。



委員

岡島まどか 氏

- 全国高等学校長協会家庭部会理事
- 全国高等学校家庭クラブ連盟常務理事
- 東京都高等学校長協会家庭部会長
- 東京都立忍岡高等学校長

comment

コロナ禍の中、地域の特色を活かしたエシカル消費を高校生の視点から展開し、企業や他者との協働による成果と波及性を感じた。

本選発表順

前半 [10:00 ~ 12:00]

① 10:00 ~	北海道・東北ブロック	宮城県農業高等学校
② 10:15 ~	九州・沖縄ブロック	博多女子高等学校
③ 10:30 ~	開催県	徳島県立阿南支援学校
④ 10:45 ~	中国ブロック	広島市立広島商業高等学校

休憩 [11:00 ~ 11:10]

⑤ 11:10 ~	甲信越・北陸ブロック	福井県立若狭高等学校
⑥ 11:25 ~	東海ブロック	愛知県立南陽高等学校
⑦ 11:40 ~	四国ブロック	愛媛県立松山北高等学校

昼食

後半 [13:10 ~ 14:00]

⑧ 13:10 ~	近畿ブロック	大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程
⑨ 13:25 ~	審査委員特別枠	佐賀県立伊万里実業高等学校
⑩ 13:40 ~	関東ブロック	栃木県立栃木農業高等学校

発表方法

- ①発表は、10分以内とする。その後、審査委員からの質疑を行う。
- ②プレゼンテーションソフトを用いる場合、パソコン操作は生徒がすることとする。
- ③パソコン操作者を含め、発表は生徒3名以内とする。

宮城県農業高等学校

地元開上の砂浜には5 mm程のプラスチックが大量にあり、これは稲作で使われる被覆肥料の残骸で、海洋汚染を起していました。ウレアホルム（肥料）を使うことで育てる時に被覆肥料を使わない栽培法（ZeroMP法）の構築に成功しました。

マイクロプラスチックは海を汚し生態系に影響を及ぼすので、仙台放送、TOYOTAの社員の方も活動を後押ししてくれます。海を守りながら安全な食糧生産を行う活動を全国に広めていきます。

予選審査での審査委員コメント

- 農業高校の強みを活かし、水田（稲作）とマイクロプラスチックの課題を発見し、仮説と実証を確実にしている。実験できちんと効果検証をしたところに責任感と本気度の高さを感じた。
- 日常の中で見つけた問いから問題を提起し、解決のための代替案を考えるプロセスを辿っている取組はまさにESDのアプローチそのもので素晴らしい。今回緩効性肥料のプラ問題を初めて知って驚いた。
- 環境問題解決と美味しさの両立を実現し、メディアでも発信し、可能性ある活動が最高に良い。また、地域の各企業と協働しながら展開、商品開発にも貢献している点も評価できる。

発表概要

海には5mm位の小さいプラスチックカプセルが沢山流れ着いていました。これは水田で使われている緩効性肥料だったのです。

この肥料は全国 140 万 ha で使用されマイクロプラスチックになります。そこで、ウレアホルムという肥料に目をつけました。

これはプラスチック肥料の代わりになるかもしれないので、5つの実験と検証を行いました。

ウレアホルムは長期的な肥料効果が確認できました。水田で使用すると既存の肥料と同じ生育をすることが分かりました。

水田の収量とコスモスの生育はウレアホルムの方がいい結果を得ました。この肥料を使えばエシカル消費になります。

プラスチックを使用しない米を地元企業と連携して販売を1か月間行いました。メディアやTOYOTAの方も活動に参加しました。

ほとんどのゴミは拾っても肥料プラスチックは拾わずにマイクロプラスチックになります。この栽培法をZeroMP法と名付けました。

SDGsの9, 12, 14にこの活動は繋がります。ZeroMP法により、海洋のマイクロプラスチック問題と水田の環境を守ります。

博多女子高等学校

私たち博多女子高等学校は、5年前から糸島市の地域問題解決を目指したプロジェクトを行っています。

『味噌バターっ鯛』は、地域問題である漁業者の雇用問題解決を目指した商品です。

今年度は、コロナの影響で活動に制限がかかり発表する場が少なかった為、新しい生活様式に合わせてリモート商談やSNSを活用したマーケティング活動を行いました。

私たちはこれからも継続的な地域活性化に繋がっていきます。

博多女子高校 商品開発

【旧パッケージ】 <今年度の取り組み>



学園祭でアンケートを行い、漁協の知名度が低いことがわかったので、漁協を身近に感じていただける新たなパッケージをデザイナーに依頼。



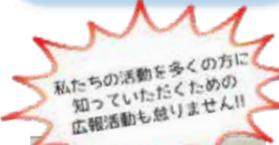
【新パッケージ】



商品パッケージに掲載されたQRコードから味噌バターっ鯛を使った「クリームパスタ」「焼き飯」「ピザ」「クレープ」など、私たちが実際に調理をした料理のレシピサイトに繋がります。



リモートでの商談会の様子



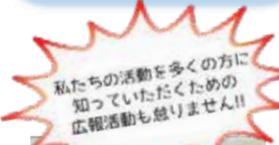
新聞やテレビでのPR活動の様子



味噌バターっ鯛の製造工程見学の様子



販売実習の様子



新聞やテレビでのPR活動の様子

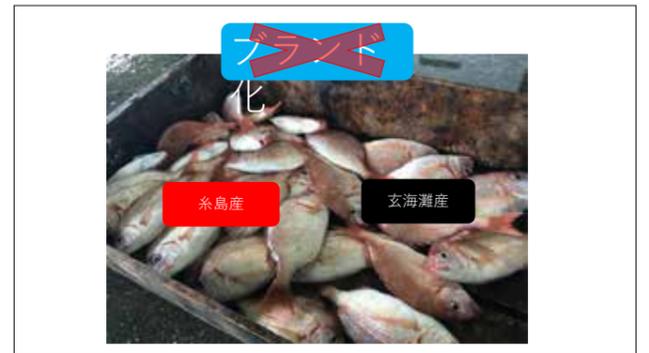
予選審査での審査委員コメント

- 毎年違った地域素材を原材料として、商品化に取り組んでいる。また、商品化するだけでなく、SWOT分析等マーケティング意識をもって、積極的にビジネスモデルを作っている。様々な商品開発の工夫や高校生発信の広報は波及性を感じる。
- 今までの取組を活かした形で、コロナ禍において出来る取組を考え出し、商品開発をした点が良い。また、授業の一環として行っており、活動をきちんと後輩に伝え継承することを大事にしている点が、継続性があり良い。
- あえて高値で販売し利益を漁業事業者に戻すフェアトレードや、放置竹林問題解決のためのメンマ菓子を商品化した、持続可能でcoolな活動が良い。

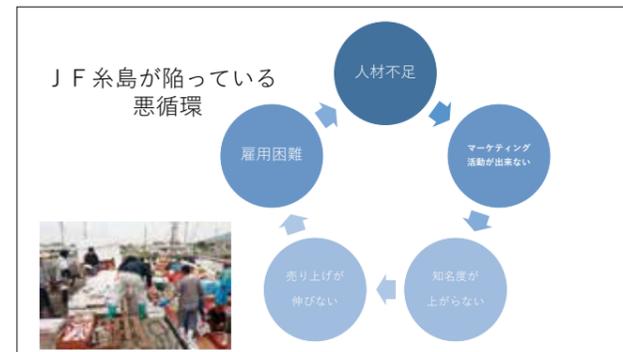
発表概要



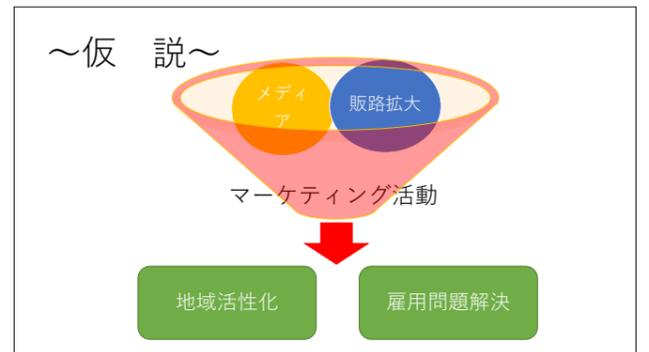
今年度は糸島産の鯛を使用した商品を開発し、漁獲量日本一の鯛を広めるために3密ならぬ3鯛の取組を行った。



糸島産の鯛は市場で玄海灘産として取引されてしまい、糸島の鯛としての知名度が低く、その結果、安価で取引されている。



いくら鯛が多く獲れたとしても人材不足により、マーケティング活動が行えない為、売上が伸びず、新しい雇用が増やせないという悪循環に陥っている。



販路拡大の実現や、新聞やテレビを始めとしたメディアを通し、多くの人知ってもらうことで地域活性化や雇用問題の解決ができるのではないかという仮説を立案。



様々なレシピ

「使用用途が分かりにくい」という意見のもと、使用例を示すレシピ考案会を実施。実際に作ったレシピはサイトに繋がるQRコードをパッケージに掲載することを提案。



リモート商談の様子

新型コロナウイルスの影響で対面販売や営業活動ができないため、リモートによる商談会に参加。商品の販路拡大を目指した。

↑

この収入が得られれば、
雇用者を1人増やすことができる！

月約2000瓶
売り上げると...

【売上】799円×2,000瓶=1,598,000円

マーケティング活動を行う以前は月平均40瓶の売り上げだったが、現在は約27倍の月平均1,100瓶を売り上げることができた。

全国規模の
問題解決を目指す！！

私たちが積み重ねてきた活動を来年同様後輩へ引き継ぎ、糸島市の問題解決を目指す。また、新型コロナウイルスの拡大防止に沿った新しい生活様式に合わせた流通を模索し社会に寄り添ったビジネスプランも考案していく。

徳島県立阿南支援学校

地域の放置竹林の竹・処分にお金がかかる広島市の平和の折り鶴・捨てられるコーヒーのかす・やっかいな特定外来種のおオキンケイギク・規格外の徳島県産杉の小径木を有効活用し、リモートワークや災害時に役立つパーソナルスペースを作成しました。

『竹ってすごいんじょ!』を合い言葉に今年も地域の人々と協力した私たちのエシカル活動を発信します。持続可能な循環型社会の実現に向けた頑張りをご覧ください。

竹紙で快適すぎ(杉)空間!
withコロナの新しい生活様式への挑戦!!
徳島県立阿南支援学校

NPO法人「竹林再生会議」の協力のもと、学校周辺の放置竹林から切り出した竹や神山の小径木・特定外来種のおオキンケイギクを用いてリサイクル・アップサイクルをめざしリモートワークや災害時に役立つパーソナルスペースを製作しました。

いやしの空間♡かいてき♡

広島の折り鶴
オオキンケイギクの採取
材料づくり
紙漉き
壁紙の制作
紙をはがす
落水紙の制作
壁紙用の竹和紙や落水紙の制作

地域の厄介者を再利用
折り鶴やコーヒー豆かすを炭化したもの・オオキンケイギクを利用した紙漉き

リモートワーク用の書斎の製作
オオキンケイギク染め
小径木と竹和紙・のれんを使った書斎づくり

柱となる小径木
障子貼り
部屋の組み立て
壁紙の組み立て

折り鶴(広島)再生プロジェクト
第48回全国公募 徳島県手工芸展 「徳島県教育長賞」

竹パウダーを使った防災簡易トイレ
組み立て分解も簡単
とても便利
竹パウダーの威力で
臭いも形もすっきり分解

予選審査での審査委員コメント

- 竹紙を活かしたコロナ禍に対応する間仕切りなど、地元の素材と新しいアイデア、そして専門的な技術を駆使した挑戦には驚くべきものがある。まさに地元の経済が循環していく仕組みを作り出している素晴らしい活動。
- 特別支援学校ならではの取組で、製材に適さない木材や竹林問題、平和の鶴の焼却問題に目を向け、自分たちに何ができるかを考え、良い製品を生み出し、問題解決を両立した持続可能な活動が良い。
- 課題解決のために熱心に研究し、創意工夫を凝らして活動している。コロナ禍での間仕切りに特産品・竹紙を活用しようという発想、実は大きな廃棄費用がかかる広島の折り鶴をつかった商品など、独創性と実行力には驚愕する。

発表概要

私たちのエシカルな活動
徳島県立阿南支援学校

木頭杉の小径木と竹紙を使った癒やしの空間づくり

①リモート&災害時のパーソナルスペース
②災害時の簡易トイレ

多くの地域で困っている放置竹林の竹や捨てられたり廃棄されたりする物を使ってアップサイクルした取組を紹介。

書斎用の壁紙やのれんの作成

コーヒーのかす
消臭効果があります

特定外来種
オオキンケイギク

特定外来種のおオキンケイギクを使った色鮮やかな黄色の竹紙とのれん、コーヒー抽出後の豆かすを炭化させた物を混ぜた紙の完成。

リモートワークや災害時のパーソナル間仕切りの制作

木頭杉の小径木と様々な竹紙
を使ってアップサイクル

癒やしの空間の完成!!

小径木を柱にし、金具で固定し間仕切りを製作。壁には竹紙など自分たちで漉いた紙を使用。消臭・吸湿効果のある癒やしの空間の完成。

各種表彰

徳島県手工芸展『教育長賞』
令和2年1、17未来賞ほうさい甲子園
『しなやかwithコロナ賞』
2020年徳島大学間仕切りデザインコンテスト
『最優秀賞』

R2.11.28 徳島新聞社提供

私たちの活動が認められ、取材を受けたり、様々な賞を受賞したりし、うれしかった。また、がんばろうと思った。

徳島に新たな文化を!
孟宗竹の阿波竹紙誕生

落水紙の完成

実習園から切り出した竹から繊維を取り出し、煮て、叩いて水に溶き、木枠に流し込み、上から水を落とすと竹紙の落水紙が完成。

平和のシンボルをアップサイクル

広島県の折り鶴再生

焼却されていた平和のシンボル『広島県の折り鶴』託された願いを大切に、今一度アップサイクルし、新たな竹紙の誕生!

災害時快適トイレ(改良版)づくり

改良前
改良後

竹パウダーの威力
●音がしない
●飛び散らない
●臭いがしない

アップサイクルで防災にも一役

簡単に分解組み立てでき
コンパクトに収納
持ち運びにも便利。

昨年度作ったトイレを改良。端材を使った組み立て式便座が完成。収納がコンパクトで持ち運びも便利に。

竹に関連した活動

『太鼓の楽校』との交流学習

竹紙を使って作品づくり
手づくりの竹太鼓を使って演奏

本校生徒が考えた学校のマスコットキャラクター

ここ徳島から、地域の人と共に循環型社会を目指した、地域が元気になるエシカルな活動を発信し続ける!

広島市立広島商業高等学校

「ビジネスの力でコロナ禍を乗り越え、社会に活気を取り戻す！」この一心で、私たちは広島市商ピースデパートを開催しました。どんなに壁が立ちかはだかろうとも、議論に議論を重ね、入念に準備すれば、合意は形成され、必ず実現できます。

WITHコロナの時代だからこそ、人と人とをつなぐビジネス活動の手を止めてはいけません。その取組を発表し、日本全国にビジネスに挑戦する気持ちが広がることを願って発表します。

学 校 名	広島市立広島商業高等学校
発表タイトル	模擬株式会社 広島市商ピースデパート ～コロナ禍だからこそ取り組むべき 新しいビジネスのカたち～

〇模擬株式会社「広島市商ピースデパート」の取組

- 1 コンセプト
ビジネス活動による社会貢献、ヒロシマの商業高校として恒久平和の継承
「平和でなければビジネスは成り立たない」
- 2 規模、組織
総合的な探究の時間「キャリア教育実践」（全学年1単位）で学習している。
21店舗、協力企業40社以上、連携校（小学校4、中学校1、高校2、特別支援1）
- 3 取組内容
 - (1) 方向性の検討
 - ・エシカル消費の促進は、エシカル消費対応のビジネスを展開する必要がある
 - ・コロナ禍に対応した安心、安全にお買い物を楽しんでいただける仕組みを作る
 - ・恒久平和、地域社会、企業のために、店舗とネットの両方でビジネス活動を行う
 - ・社員のために、学習した知識や技術を生かしたビジネス活動を行う
 - (2) 実現したビジネスのカたち
 - ① コロナ感染症拡大予防ガイドラインの徹底協議と広報
 - ・企業や社会の動向、他校の状況、保護者の状況を調査、作成、準備、実施。
 - ・事前来場者数調査（2回）
 - ・マイスリッパ、マイバッグ、マイ靴袋の3点セット持参の呼びかけ
 - ② 実店舗
 - ・店舗の配置、会場レイアウトの工夫（サッカー台）
 - ・販売方法の工夫
 - ・経費節減の呼びかけ
 - ③ ネット販売・カタログ販売（ICTの活用）
 - ・ネットショップ「広島市商ドットコム」のノウハウを生かし、学校全体へ波及
 - ・企業紹介応援ページの制作
 - ・カタログ販売 ペーパーレスの取組
 - ④ 平和企画展示、社会貢献
 - ・被爆75周年を迎えた今、体験者・語り部の継承
 - ・姉妹校 長崎商業高校との取組（風呂敷 和花、うみドレ）

〇みらい商業科「8コース」の探究学習

8コースの専門性を活かし、デパートの各部署での活動に貢献



みらい商業科8コース



ネットショップ運営



観光ガイド実習

発表概要



「広島市商ピースデパート」は、平和貢献、社会貢献を目的とし、毎年、利益の一部を広島と長崎の平和事業に寄付をしています。



姉妹校の長崎商業とビジネス活動での協働を通し、恒久平和の発信、長崎と広島の特産をミックスした商品も生まれています。



コロナ感染症が広がり、校外外から開催の是非を問う声が上がる中、課題を挙げ、一つひとつ、対策を練っていきました。



店舗面積の縮小、一方通行、体調管理表の提出、入場・滞在制限、換気・消毒、マスク・手袋の着用、販売方法等を工夫しました。



まず、生徒が授業を行い、「コロナを知る」をテーマに学習し、実際の企業や社会の取組を参考に対策を考えました。



これまで、地域や社会の課題を考え、防災、フェアトレード、間伐材の商品化、健康に関連する商品を取り扱い、提案してきました。



学んだことを活用し、ネット販売、デジタルカタログ、リモート会議、QRアンケート、企業応援ページの制作等を実現しました。



自らも範を示す強い意志、周囲に呼び掛け巻き込む発信力を持ち、推進していくことで必ず達成できると確固たる自信があります。

予選審査での審査委員コメント

- 広島ならではの平和をテーマに、エシカル消費と組み合わせた「ピースデパート」という発想が斬新。広島市商ドットコムは地元企業と市民を繋ぐハブのような役割を果たしている。
- コロナの時代に対応したエシカルな取組のあり方を、子どもたちが主体的に学びながら実践している様子が伝わってくる。コロナだからイベントは中止しよう、ではなく、消費者動向を調べ感染症対策を考え抜いた上で「やってみよう」という意欲がまず素晴らしい。
- コロナ禍で多くの企業や店舗が苦境を強いられているが、まず自分たちも同じ苦境を経験しようとする中で、机上ではなく体感で得られたことは大きかったはずだ。

福井県立若狭高等学校

互いが支えあう「つながり」の強い地域づくりに関わりたい！また高校生がこの活動をするこ
とで若者から発信し、多くの人に地元の良さを伝えたい！その想いで、私たちは食のまち小浜テ
イクアウト情報とフォトコンテストを企画・実行し、地域の助け合い、関わり合いの輪を生むこ
とに尽力してきました。

現在はそれをより強くするために新たな空間 e-space の設置に向けて活動しています。

【様式4】 福井県立若狭高等学校

これまでの取り組みの様子

①食のまち小浜テイクアウト情報

②小浜おうちでご飯
フォトコンテスト

③これまでの活動から、
E Space の取り組みへ



食のまち小浜テイクアウト情報

食のまち小浜テイクアウト情報
40 1,001
投稿 フォロワー フォロワー

アップデート
お知らせ2件

食のまち小浜テイクアウト情報
食のまち小浜テイクアウト情報
コロナが打ち撃つ第一歩、
強くなる！ココロとカラダと人との関係
HELPPPLA
Facebookページ「食のまち小浜テイクアウト情報」
お小浜おうちでごはん、
eアンケートはよこならお願ひします！
https://www.instagram.com/obama_takeout/

EDUCATION SPACE
学生が校舎や図書館以外で勉強できる環境を確保するためのスペース。

01 仕込みの時間などの
ロスタイム間に店を開放

02 Eスペースとして
学生が店を利用

03 学生同士の会話で
店の情報広まる

04 飲食店として
学生が店を利用

予選審査での審査委員コメント

- コロナ禍で直面した地元飲食店の課題を、生徒たちがネットを使って解決に導く取組が素晴らしい。実際に飲食店の売上げに貢献をし、市民にとっても有益な情報を提供できたので win-win な循環を生み出した。
- 高校が主体となって行政・企業・地域と連携し、地域を元気にする取組である。実施後の効果分析も行っており、成果も出している。コロナ禍で真に必要とされたものを高校生が実現し、地域の活性化になっている。
- コロナ下での深刻な地域の経済状況を何とか救おうという熱い思いが伝わってくる。地域との連携も良く、実際に地域全体の取組となり、経済的にも地域住民の意識の変化においても大きな成果が上がっている。

発表概要

活動の流れ



学校もお店も住民も行政も、お互いがお互いを支え合い、応援し合う。そんな地域の温かい「つながり」を強くしたい！

コロナを糧に



新型コロナによって、これまでの生活は一変。しかし、当たり前を失うことで地域の温かさ、自分たちの目標を再認識。コロナ禍に自分たちができることを。

これまでの活動



インスタグラム & Facebook にてアカウントを作成し、市民がテイクアウトの情報を得やすくすることが目的。

これまでの活動2



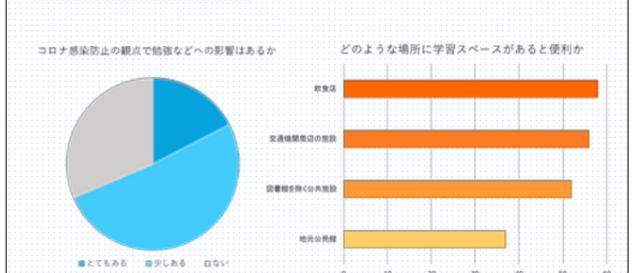
いろんなイベントが中止・延期になっているコロナ禍の中で、市民が一体となって楽しめるフォトコンテストを開催し、地域を盛り上げる。

今後の活動 e-spaceとは？



お店が開店前・閉店後の仕込み時間や客足の少ない時間等、ロスタイムにお店のテーブルやカウンターを e-space として提供。

アンケート結果



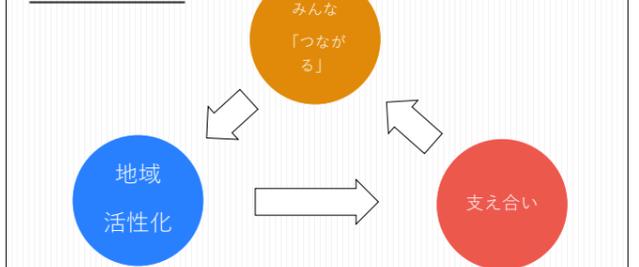
学生 293 人対象にコロナ禍の勉強環境についてアンケート実施。結果、上記のような結果が得られた。

e-spaceの利点！



流れの循環により、学生のニーズを満たすと共に、お店の情報拡散、客足増加を図る。また、より一層地域の「つながり」強化を目指す。

まとめ！



プロジェクトの実現、先輩から受け継いできたもののさらなる発展を目指し、お互いにお互いを支え合う「つながり」の強い地域づくりに取り組んでいく。

愛知県立南陽高等学校

私達 Nanyo Company 部は 2010 年に設立され、フェアトレード・カーボンオフセット・COOL CHOICE の制度を活用したエシカル消費に関する普及・啓発、地域貢献活動を行っています。

今年度は、Zoom を使用したオンライン交流会・期間限定のネット販売など新しい事に取り組むだけでなく、流通業界の 3 分の 1 ルールに着目したフードロス削減に繋がる商品開発は、SDGs の啓発にも繋がりました。

私たちのモットーである「Big smile！」を世の中に広める活動をご覧ください！



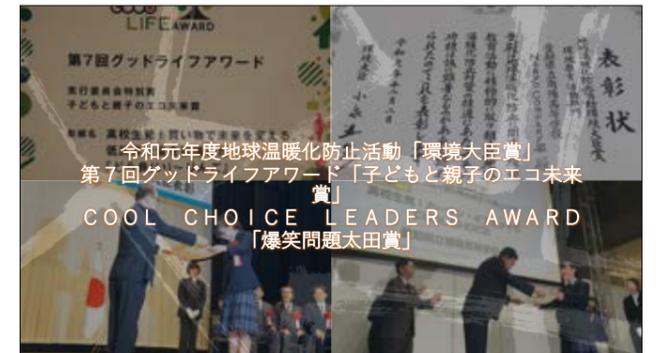
予選審査での審査委員コメント

- フェアトレード、カーボンオフセット、COOL CHOICE という3つのピースを組み合わせた発想と取組は独創的である。
- 継続してきたからこそ、オリジナルのフェアトレードコーヒーがスーパーで採用されたり、百貨店でカタログギフト掲載が決まったりと、企業を巻き込むインパクトを生み出している。
- ドライフルーツがコロナの影響で捨てられるピンチにある時にさらに工夫して商品開発に繋げる発想の豊かさ、粘り強さが素晴らしい。賞味期限やコロナといういかんともしがたい壁に直面し、その突破口としてアイスクリームに生まれ変わらせて無駄にしない、という発想と覚悟が素晴らしい。

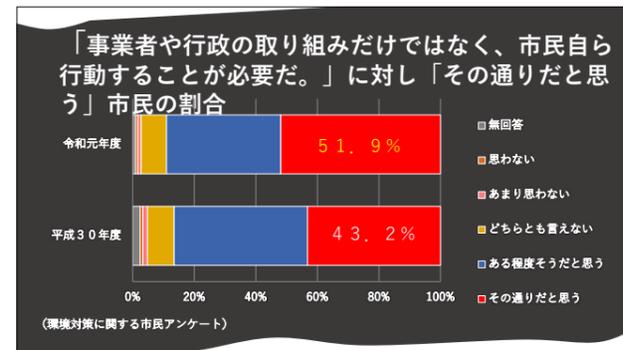
発表概要



私達は地域貢献を目的とし、人や社会、地球環境などに配慮したエシカル消費に関する普及・啓発活動を行っている。



こうした活動が認められ、地球温暖化防止活動環境大臣賞の受賞をはじめ、様々な団体から表彰されるなどその活動が評価されている。



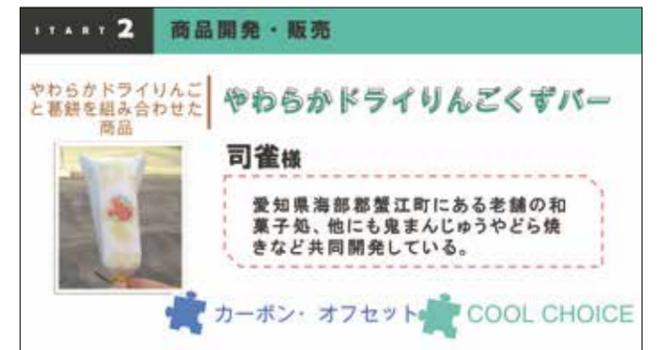
名古屋市の環境問題の質問に対し、「その通りだと思う」と答えた市民の割合が平成 30 年度に比べ令和元年度は 8.7% 上昇していることがわかった。



対面で話す機会が無くなり、別の方法を考えた結果オンライン会議システム Zoom を使用しフェアトレードオンライン交流会などに参加した。



環境に特化した商品「やわらかドライりんご」を株式会社エム・ティ様と開発。台風などで傷がついた規格外品のりんごを使用している。



販売機会が減り、賞味期限が迫る在庫問題が発覚。やわらかドライりんごと葛餅を合わせた「やわらかドライりんごくずパー」を開発した。



3分の1ルールの見直しに向けた、食品ロスへの対応として開発。普段なら廃棄される商品をまた違う形で新しい商品として販売することができた。



今後は対面販売だけではなく、オンラインでのショップ販売や普及活動を組み入れた、持続可能なエシカル消費と地域貢献を両立していきたい。

愛媛県立松山北高等学校

私達は、興居島をフィールドに地域の魅力を探究・発信してきました。今年度からは、継続性と実効性をテーマに、新たに環境保全・景観保全・調査啓発の3つの活動を実施し、島の課題解決と環境維持に取り組んでいます。

今年度は思いを100%形にすることはできませんでしたが、先輩の意志を継ぎ、過疎と高齢化の進む忽那諸島にフィールドを広げ、北高だけでなく、島民をはじめとする地域の方との更なる協働活動を目指しています。

校訓 文武心

生徒努力目標 「心躍る学び合い ~ 一朵の雲を目指して ~」

「地域連携」

Food Drive with 子ども食堂

オンラインミーティング chromebook 活用

「郷土料理」講習会 地域交流

松山北高校「愛land ☆ まつやま ~ 一朵の雲を目指して ~」プロジェクト

「地域協働」

「総合的な探究の時間」SDGs 活動

大学出張講義 (写真: 令和元年度)

サイクリング推進事業 with 松山北中島分校

発表概要



フェリーでわずか15分。私たちのフィールド「興居島」に到着。松山市に属し、松山から一番近い離島。でも、「過疎と高齢化が進む島」



興居島内のイベント参加に加え、活動メンバーを松山北高校全生徒に拡大し、「環境」を意識した取組開始。テーマは高校生の「主体性」



これまでの活動により地域だけでなく、行政機関との「協働」体制も構築。キーパーソンは地域おこし協力隊員「家弓さん」

高校生主体の今年度の取り組み

環境保全活動

- 興居島海岸清掃 (8/2・9/20・12/21・12/22・12/23・12/25)
- 約島海岸清掃 (7/18) ※ 今後2回の清掃活動を予定 (1/10現在)

景観保全活動

- 枯草収穫サポート (新型コロナウイルス感染予防により中止)
- 耕作放棄地、災害被害等現状視察 (7/11・9/13・12/1)

調査啓発活動

- 島内イベントでの環境啓発 (新型コロナウイルス感染予防により中止)
- 環境啓発ポスター製作 (株) ごごしま、興居島島内等への掲示依頼

これまでの活動に、今年度新たにスタートさせた「環境3本柱」。メインは災害復興ボランティアから続く「環境保全活動」



これまで7回、合計8か所での海岸清掃。島民からの「感謝」の声掛けも、新型コロナウイルスの影響で深められなかった「協働」

高校生主体の今年度の取り組み “継続性” テーマ “実効性”

想定された課題

- 効率的かつ効果的な清掃場所の選考
 - 潮流、風向を意識・・・相子ヶ浜、国木海岸
 - 潮汐を意識・・・船越、門田
- 活動資金(島の移動と交通費)
 - (株)ごごしまの協力、愛媛県「三浦保」愛基金の活用
- ごみ袋とごみの処分
 - 松山市清掃局、「海ごみ」、中島汽船との連携

想定外の課題

- 新型コロナウイルス感染予防対策
 - 健康チェックシートの提出、島の情報収集
 - 「行かない」という判断 (6/28、12/5中止)
 - 感染予防による島民との協働活動の「困難」さ
 - BBC (Bicycle Beach Clean) 実施、人数の制限

「ごご島」や地域の現状を知り、そしてコロナ禍だからこそ、より強く意識できた「継続性」と「実効性」



「ごご島」での活動はつづく。そしてその輪を広げ、地域の現状を変えるために、更なる活動のフィールドは「くつな諸島」

今後の展望

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
環境保全活動	10回	10回	10回
景観保全活動	1回	1回	1回
調査啓発活動	1回	1回	1回
その他	1回	1回	1回

興居島や忽那諸島の人口・行政の方々との協働島の海岸清掃と生活環境の維持この活動と取組の輪を広げていきたい!

「ごご島」だけでなく、「くつな諸島」全体の環境、景観を守るために、未来の「主権者として」

予選審査での審査委員コメント

- 行政や地域の方と連携し、かつチームだけでなく一般生徒にも参加呼びかけをして継続的な活動を行い、環境保全と島民の元気に繋がっている。また、「ごごしま検定」という発想と実践は独自性が高い。
- 高校生たちが高齢化と人口減少が進む島で、島の課題を解決するだけでなくもう一歩踏み込み、島民や民間団体、行政との対話を重ねながら活動を行なっている様子が素晴らしい。
- 身近にある高齢化と人口減少の地域に着目し、高校生の自分たちに何が出来るか模索している様子が分かる。住民との交流など今後の展開が楽しみ。

大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程

私たち定時制の生徒は、自信がなく、人と接することが苦手です。しかし、この活動に取り組んでからは、自分に自信を持ち、自己有用感を高めることが出来ました。

また、被災地支援を通じて「環境保全」の大切さを学び、「バイオディーゼル発電機」や「プラスチックゴミ油化装置」を製作しました。

コロナ禍においては、地元商店をオンラインで紹介し、エシカル消費の発信をしています。私たち定時制高校の活動を是非知ってください。

大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程

地場産業による「被災地支援と環境啓発」プロジェクト 及び地域連携「ゆめ・チャレ」



予選審査での審査委員コメント

- 夜間定時制課程ならではの着眼点である、廃油を活用したバイオディーゼル発電と防災意識を結び付けた活動は、地域への貢献度も大きい。また、プラスチックゴミ油化装置の開発や被災地の高校生との連携を評価したい。
- プラごみの油化装置や消費期限切れ油による発電機製作、特産品や地域・商店街での様々な活動。数々の受賞も納得で、環境問題の解決と地域の安全・活性化に大きく貢献する活動で最高に良い。
- 定時制の子どもたちの輝く姿が素晴らしい。身近な特産品を学ぶことを通じて、非常に多岐に渡る活動をしている。プラごみが自動車を走らせるエネルギーとなるかも、夢を感じる発想。

発表概要



伝統地場産業を学ぶ「堺学」で「包丁」を作り、被災地に直接届けている。また、これまでに寄贈した「包丁」の研ぎ直しのための被災地訪問もおこなっている。

伝統地場産業の「線香」の製作と、寄付付き「線香」の販売もおこない、被災地に「義援金」を直接手渡している。また、大阪府と連携し、「オレオレ詐欺」防止線香などの商品開発もおこなっている。



被災地の「宮城県農業高校」とは、「コラボ線香」や「桜塩」を製作・販売することにより、支援をおこなっている。「大船渡東高校」とは、被災地を「椿の花」でいっぱいにする「レッドカーペット・プロジェクト」に取り組み、被災地から苗木を購入などの消費活動もおこなっている。また、被災地の方々にマスクの作成を依頼し、被災者の方々の雇用に繋げている。



どの家庭にもある「天ぷら油」や「使用済み油」で電気を作る「バイオディーゼル発電機」を製作した。「環境問題」について小学生に考えてもらえるように「電動マリカート」も製作した。「エコ電カー」レースの全国大会にも出場した。「一万人のキャンドルナイト」も実施し、参加者全員で「環境保全」について考えた。



自然災害の一因と考えられている「プラスチックゴミ」から「油」を作ることが出来る「プラスチックゴミ油化装置」を製作し、出来た油を「バイオディーゼル発電機」に入れて電気を作る。すなわち、不要な「プラスチックゴミ」から電気を作ることが出来る。



伝統工芸品を製作し、「啓発グッズ」として配布し、「環境保全」を始めとする様々な「啓発活動」を地元企業とおこなっている。また、商品開発もおこない、地元商店で販売活動もしている。震災伝承館において、被災地の中学生が作った「防災カルタ入り啓発グッズ」の配布活動を予定している。



小学生仕事体験の「ゆめ・チャレ」を実施し、小学生がもらった給料800ユーメ（800円相当300人参加）で地元商店で買い物出来るシステムを作り、商店街におけるエシカル消費の活性化を図っている。また、コロナ禍における「ゴートウ商店街」の取組をテレビやラジオ、ユーチューブで発信している。



私たちの取組が「読売教育賞」最優秀賞、「時事通信社教育奨励賞」優秀賞、「ぼうさい甲子園」優秀賞を受賞した。また、先日は首相公邸において「内閣総理大臣賞」を受賞することが出来た。さらに、伝統工芸品の「線香」で世界一のモザイク画を作り「ギネス世界記録」も達成した。

佐賀県立伊万里実業高等学校

私たちフードプロジェクト部は「食で伊万里を元気に！」をモットーに地域とともに活動しています。昨年度より伝統文化とのコラボレーションにも挑戦し、地域食材や文化を観光資源としたPRを行っています。

伊万里の魅力を県内外の人に発信し、地域をもっと元気にしたいと思っています！今年度は新型コロナウイルスの影響で多くのイベントを自粛することとなりましたが、コロナ禍でも自分たちにできることを見つけ、挑戦を続けています！

IMARI×MIRAI

食で伊万里を元気に！プロジェクト

佐賀県立伊万里実業高等学校

新商品開発

- ★地元農産物を使ったオリジナル商品を開発！
- ★地元製菓店や商店街組合との共同企画も行っています

まちなかカフェ

- ★商店街の空き店舗を活用したまちなかカフェの運営
- ★伊万里焼カフェの実施による伝統文化継承

普及活動

- ★多くの舞台で伊万里の食について発信しています
- ★SNSを活用したPRにも力を入れています

予選審査での審査委員コメント

- 地元の食と伝統文化を復興するため、地元農家や伊万里焼の組合・百貨店等と連携し、地元でできる範囲で最大限、地元の食を活性化させた活動が良い。空き家を利用したカフェが、今後地域の人たちが交流し、エシカル消費の魅力を伝える場所になっていくことを期待する。
- 黒米、プチヴェールといった「知る人ぞ知る」特産に目をつけて、天下の伊万里焼と組み合わせる取組が、とても魅力的。
- コロナ禍の中でのPRの工夫や活動についても工夫がみられる。地域の伝統工芸を古いと感じないで、若い皆さんが使用し、愛でることが未来へととても大事だと感じさせる取組である。

発表概要

Step 1 調査活動



調査結果
 ①駅前通りの1時間の平均歩行者数は約74名。近所同士の行き来や通勤通学の人が多く、休日は人の出歩く姿はほとんどない。
 ②かつては今の3倍以上の人通りがあり、毎日にぎわいを見せていた。
 ③50%以上の方が地産地消を実践されており、地域の方は伊万里の食に関心がある。
 ④伊万里には誇るべき食文化、伝統文化がある。

地域のことをもっと知るために地域のイベントや講演会へ参加し、意見交換を行い、「伊万里のブランドを観光資源とした街の活性化」をテーマとして活動することにしました。

Step 2 商品開発

【プチヴェール】廃棄部を粉にし、スイーツに活用！



地域野菜の廃棄部分をパウダー化し、プチヴェールの栄養価を活かした商品を開発！子どもや高齢者への栄養食品として紹介しました。

Step 3 焼物文化とのコラボレーション



伊万里焼を後世に伝えるため伊万里焼とのコラボレーションに挑戦！また、あまり知られていない伊万里の菓子文化を伝えるためのキャラメルシリーズも商品化！

Step 5 新しい生活様式に対応した商品開発



イベント自粛が続く中、家庭でもスイーツを楽しんでもらえるよう電子レンジでできるミックス粉を開発！また、黒米で染めた手作りマスクを伊万里市へ寄付することができました。

Step 2 商品開発



地元農家の方と栽培した黒米を使った新商品開発！地元製菓店とのコラボレーション商品やアレルギー対応にも挑戦しています。

Step 2 商品開発



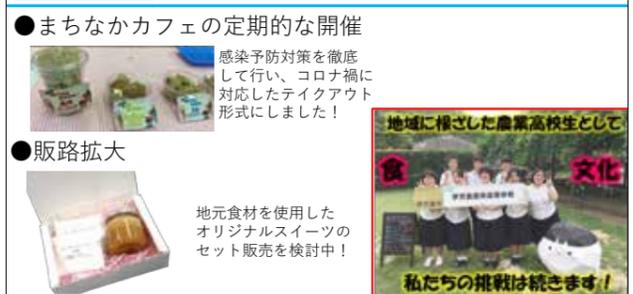
その他、地元で作られている5つの食材を使った5色クッキーや伊万里梨を使った砂糖不使用の梨蜜ケーキ、伊万里牛を使った肉まんなどを販売！

Step 4 普及活動



販売活動の他に、施設に向いての出張授業や地元百貨店での常設販売、まちなかカフェの運営など伊万里市との共同開催も実現しています。

Step 6 今後の展望



私たちはこれからも地域に根ざした農業高校生として地域食材・地域文化を受け継ぎ、広く発信していくことを目標に私たちの挑戦は続きます！

栃木県立栃木農業高等学校

蔵の街栃木市のお悩み「耕作放棄地増加と伝統工芸品後継者不足」を一挙に解決したい。耕作放棄地は幸作帯地になり、生産力を向上することができるのか。美と機能性を備えた「座敷箒」を地元の誇る伝統工芸品として継承・発展させることができるのか。

私たち農業環境部地域デザイン班は、二つの難題解決のため、新たなビジネスモデルを考案し、生産者・職人・ヒトを繋ぐ地元栃木市の農産物発展に貢献することを宣言します。

とちぎ蔵の街、先人が伝える不偏の伝統工芸品を次世代へ ～幸作帯地が創る新たなビジネスプロジェクト～

栃木県立栃木農業高等学校
農業環境部地域デザイン班

テーマ① 〈栃木市伝統技術を学ぶ〉

栃木県は、鹿沼市の「鹿沼箒」や都賀町（現栃木市）「都賀の座敷箒」など全国有数のほうきの産地でした。これらの箒は、箒の根元にある「始（はまくり）」という草が細かく編み込まれた部分が最大の特徴であり、他の箒にない美しさ・丈夫さを有しています。

しかし、現在では、生活スタイルの変化などにより、箒を見かけることは少なくなりました。今では職人さんは数えるほどになってしまい、箒（ほうき）の原料となる草（ホウキモロコシ）を栽培する農家さんも高齢になり引退するなど、その数は数えるほどになってしまいました。

また、近年国産箒（ほうき）の需要が増えており、特に都心近郊への販売が急務となっています。そこで、私たち高校生がホウキモロコシの栽培と座敷箒の伝統技術を学び、地域小中学校等と連携、栃木市特産品を全国に発信していきます。



ホウキモロコシ栽培



ホウキ作り

テーマ② 〈栃農式有機農法を確立する〉

化学肥料・化学農薬を使用せずに、自然の力と有機物を利用する循環型農業を開発する。本校の圃場にて試験栽培しながら、栃木市の有機栽培農家さんと連携し、有機栽培を学習します。また、地域イベントへ参加することでヒトとモノの繋がりを深めていきます。



〈活動理念〉

学校で得た学びを地域に還元する、又は地域から得た学びを学校に還元する
農業高校に入学したからには、農業で生きる術をとことん磨き抜く
自分に何ができるか、やれることをやろう
地域を見つめ直し、世界を見よう



発表概要

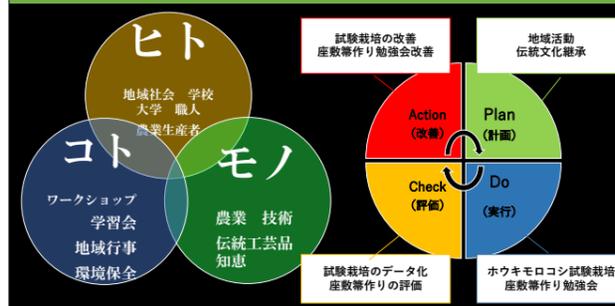
とちぎ蔵の街、先人が伝える不変の 伝統工芸品を次世代へ

～幸作帯地が創る新たなビジネスプロジェクト～



私たちは、栃木市に古くから伝わる伝統工芸品を次世代に継承するために、地域を取り巻く課題解決を目標に、農と職を繋げる持続可能なビジネスを提案します。

研究目標 持続可能なビジネスモデルの提案



このことから、二つの地域課題を一挙に解決するために「ヒト・モノ・コト」を結びつけ、PDCA サイクルを循環させ、持続可能なビジネスモデルを提案することにしました。

2020年(2年目) 研究目標 ホウキモロコシの有機栽培と箒作り勉強会

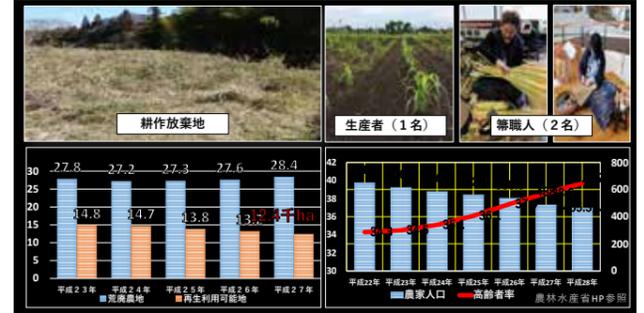
Plan (計画)	Do (実行)	Check (評価)	Action (改善)
①有機栽培試験 実験内容 (1) 草生栽培の比較試験 (2) 病害虫の発生調査 (3) 品質調査 (4) 収量調査 ②小箒作り 学習会		<p>草生栽培 33% 除草剤 75%</p>	<p>有機栽培の継続 研究</p> <p>生産者の栽培 利点についての 研究</p> <p>withコロナ 普及活動 と地域交流</p>

2年目の研究は、有機栽培を実施し病害虫・品質・収量等のデータ収集を行いました。勉強会では少人数で実施しました。改善策は、生産者にホウキモロコシの魅力や利点を発信する、コロナ禍における地域交流方法と情報の発信です。



私たちは、この二つの大きな地域課題を、農業の力で地域による地域のための持続可能なビジネスを提案していきます。

はじめに 耕作放棄地問題と職人後継者減少



はじめに、耕作放棄地は年々増加して住環境を脅かしています。また、農業従事者の減少に伴い、箒の原料であるホウキモロコシの生産者は県内で現在1名、職人さんは2名となっています。

2019年(1年目) 研究目標 伝統工芸品「都賀の座敷箒を知る」

Plan (計画)	Do (実行)	Check (評価)	Action (改善)
①座敷箒の研究 ②ホウキモロコシ栽培に挑戦 ③箒作り勉強会 ④ワークショップ開催		<p>①職人宅へ訪問 情報収集 ②順調に生育 ワークショップにて活用 ③年間8回の勉強会開催 技術習得 ④地域イベント参加4回</p>	<p>慣行栽培 ↓ 持続可能な農業 (有機栽培)</p> <p>座敷箒 (困難) 小箒 (安易)</p>

1年目の研究は、ホウキモロコシの栽培やそれを利用してワークショップを開催しました。改善策としては、循環型農業でホウキモロコシ栽培と馴染みやすい小箒の技術習得を目指すことです。

2021年(3年目) 研究目標 生産者の生産メリットとwithコロナ

Plan (計画) 予定	Do (実行)	Check (評価)	Action (改善)
①有機栽培試験 Part2 (1) 昨年度との比較 (2) 栽培時期による生育比較 ②生産者の栽培メリット (1) 宇都宮大学と共同研究 (2) 他品目の収益性リサーチ ③座敷発祥の地「赤津小学校」との交流 ④動画制作		<p>94 68 85 78 60 30 55</p>	<p>来年度の研究は、有機栽培の継続研究、科学的栽培メリットや収益性の宇都宮大学との共同研究、小学校との交流、動画制作を実施する予定です。</p>

最後に 私たちのエシカル活動



最後に、私たちは地域の宝である「ヒト・モノ・コト」の繋ぎ役として、これからもSDGsに取り組み、持続可能な社会を目指して取り組んでいきたいと思っています。

予選審査での審査委員コメント

- 地域の農業の耕作放棄地問題と、伝統工芸技術後継者不足の2つを同時に応援する、愛を感じる活動ですね。
- 県内ではわずか2名しか残されていない箒職人からバトンを受け継ぐ形で、生徒たちが本気となって問題解決のために立ち上がっている姿が伝わってくる。
- 座敷箒という伝統的な生活用品とその生産における課題、そして今日的な農業人口高齢化の問題を繋ぎ、解決策を探ろうという姿勢が素晴らしい。

各ブロック次点校の紹介

北海道・東北ブロック	仙台市立仙台商業高等学校
関東ブロック	埼玉県立皆野高等学校
甲信越・北陸ブロック	長野日本大学高等学校
東海ブロック	静岡県立富岳館高等学校
近畿ブロック	兵庫県立松陽高等学校
中国ブロック	金光学園高等学校
四国ブロック	愛媛県立南宇和高等学校
九州・沖縄ブロック	長崎県立五島高等学校
開催県ブロック	徳島県立城ノ内高等学校

関東ブロック

埼玉県立皆野高等学校

さいたまけんりつみなのこうとうがっこう
埼玉県立皆野高等学校

野生鳥獣による被害解決に向けた商品開発と販売に取り組んでいます！

野生鳥獣による様々な被害
秩父地域では、猪や鹿、ハクビシンなどの野生鳥獣によって農作物が食べられたり、木の皮を食べられ立ち枯れを引き起こすなど、様々な鳥獣被害が出ています。

実現を目指しているサイクル
被害の現状を踏まえ、私たちは下図のようなサイクルの実現を目指し、活動しています。

被害の解決に向けて
販売実習から得た利益は「秩父地域鳥獣被害対策協議会」へ寄付しています。
<寄付実績>
・平成29年度 9万円
・平成30年度 10万円
・令和2年度 10万円 (予定)

秩父もつ味噌ラーメン
イノシカバーガー

皆野高校は全校生徒76人の小さな高校ですが、地域の課題解決のため、色々な活動に取り組んでいます！

埼玉県立皆野高等学校 設置学科・商業科/情報処理科
埼玉県秩父郡皆野町大字大淵19-1
TEL 0494-62-2076 FAX 0494-63-1001

埼玉県立皆野高等学校は、埼玉県北西部の皆野町にある自然豊かな学校です。私たちの地域は、少子高齢化や観光客の減少、野生鳥獣による農作物被害など多くの課題があります。皆野高校では、様々な活動を通し、生徒と地域の企業が連携しながら、これらの課題の解決に取り組んでいます。

今年度は、鹿の角や皮を使った「工鹿ルな商品」を開発し、販売した利益を鳥獣被害対策に寄付することで、地域の課題解決に貢献しました。

予選審査での審査委員コメント

- 環境に配慮し、環境保全活動におけるエシカル消費がみられる。特に、このコロナ禍の中で、これまで開発した食品販売ができず、新たな商品開発に取り組む、成果を上げた。
- 鳥獣被害の削減とエシカルに着目した地域課題解決に向けた活動は、素晴らしい。SWOT分析から商品開発、そしてビジネス体験へとステップアップしている点を評価した。
- 農作物被害解決に向け、ジビエ料理を開発、多数販売し、売上を鳥獣被害対策に寄付するサイクルが良かった。Webの勉強など着実に未来を見据えて活動している。

北海道・東北ブロック

仙台市立仙台商業高等学校

仙台市立仙台商業高等学校

私たち商業情報部は地域への貢献を目的にビジネスの考案や商品の開発・販売、イベントの開催など幅広く活動しています。昨年からは、環境問題の改善を目標に活動してきました。近年では国や世界規模で環境問題に対する取り組みはあるものの、未だ解決には長い道のりがあるとみられます。さらに、環境問題の解決には市民が問題意識を持ち、協力しあうことが必要です。そこで、私たち高校生が身近な地元市民の意識改革を行い、環境問題の広い意識の環(わ)を作ることでも問題の解決に貢献することができるのではないかと考えました。そこで、市民の意識改革のため分別の推奨や環境に関するイベントの開催、紙袋・エコバックの推奨、また活動前後のアンケート調査による意識改革の分析を行いました。活動で得たさまざまな視点と商業情報部独自のアイデアで環境に関する身近な問題に向き合っていきます。

私たち商業情報部は主に地域活性化を目的に、商品開発や販売、イベント開催などの活動をしています。

昨年からは環境問題の改善を目標に活動を行っていますが、未だこの問題の解決には至っていません。そこで地域市民の意識改革を行うことで、少しでも問題解決に貢献したいと考え、環境に関するイベント開催、紙袋・エコバックの推奨、アンケート調査による意識改革の分析を行いました。これからもこの活動を継続していきます。

予選審査での審査委員コメント

- 多くの人に身近なごみ問題に着目し、キーホルダーや紙袋のファッション性を工夫して、楽しく環境問題改善に関わる意欲を引き出そうとしているところに好感を持った。
- 地域ならではの課題を見つけ、社会のための行動ができている市民の分別意識を高めるためのチラシの作成は、高齢者にとっても良い情報。
- 課題分析、目的、活動コンセプトが明確で進め方が素晴らしい。地域の多様な主体と連携・協働して成果を出しており、今後の展開も期待できる。

甲信越・北陸ブロック

長野日本大学高等学校

学校法人 長野日本大学学園
長野日本大学高等学校 長野日本大学中学校

特別プロジェクトの第2弾として長野日本大学学園は「世界部」を立ち上げました。「長野県の魅力を世界に発信するプロジェクト」として生徒主体の「国際部」として活動をしていきます。

海外インターンの提供に強い企業である「タイガーモブ」のサポートを受け、県内の企業とコラボをして企画・商品開発等行っています。この世界部のプロジェクトは基本的に週1回のペースで進んでいきますので、定期的に特設ページにてアップしていきたく思います。

11/7(土) 毎週毎日新聞に本校の「世界部」の活動が紹介されました。飯沼の名産品を長野日本大学学園から世界へ発信・販売を目標として今年10月より発足いたしました。

海外インターンの経験を持っている「タイガーモブ」の協力のもと、七海中学校の八幡原麻太郎、新井悠斗君の活躍が、りんごをテーマにした中村麻太郎君がそれぞれの商品を海外へ販売しています。

高校だけでなく、本学園の幼稚園(年少)、小学校、中学も大きなプロジェクトになります。

この活動は本校ホームページの「特別活動」のページにてアップしてまいりますのでご覧ください。

毎週毎日新聞11/7(土) 朝刊
売るぞ！信州名産 学校から世界へ

本校では、異年齢集団による課題探究型の学びを実践する場として「長野日大世界部」の活動を行っています。

この活動は、中高生・小学校児童・幼稚園児が、長野県北信地域の魅力ある商材について企業さま、農家さまと協働して世界に向けて販売していこう！という活動です。

長野が誇る「七味唐からし・おやき・復興りんご」をグローバル展開してまいります！

予選審査での審査委員コメント

- 被災地の復興・元気に繋がる応援消費の取組であり、世界に向けて特産品を発信していることを評価したい。
- 地域の抱える課題に真摯に向き合い、小学生等も巻き込んで継続性のある地域全体の取組としていこうという意欲、実際に連携協働が広がっている点が素晴らしい、今後の成果が期待できる。
- コロナ禍でオンライン会議を活用したり、集中豪雨におけるりんご農家の被災に着目したり、社会課題を自分事化しようとする意欲も感じる。

静岡県富士宮市はニジマスの生産量日本一を誇る。しかし、ニジマスでまちづくりを推進している一方で、その残渣（おもに頭部や骨、内臓等）が大量に産業廃棄物として廃棄されていることが課題であることがわかった。本来廃棄予定だったものを地域資源として、そこから有用なエコ堆肥を作り、特産物栽培に活用した。

それを使って環境や社会に配慮した商品開発へと繋げ、エシカル消費の推進から循環型農業の基盤を作る。

予選審査での審査委員コメント

- 地域の事業者等と連携しながら、地域の特産品から出る残渣を使って新たな価値を生み出す工夫が素晴らしく、自分たちの学びを小学生に伝え地域を継続的に変えていこうという主体的な取組がよい。
- ニジマスの残渣と特産品の落花生の組み合わせがユニーク。落花生の殻のパルプ化も今までにない発想。落花生から様々な製品のアイディアに繋がっている点も良い。
- 子どもたちに農業の楽しさを知ってもらう出前授業は高校生ならではの良い取組である。さらに取組を拡大し、広報・普及できる可能性を感じる。



被災地でのボランティア活動で「災害食は美味しくない」「新鮮な野菜や果物が食べたい」という被災者の生の声を聞き、更に避難生活中に便秘や体調不良に苦しんでいる方が多く、食の質が悪いという課題を見つけました。そして「私たち高校生に何ができるのか？」と議論を重ね、美味しい災害食・食物繊維と栄養バランスの整った、賞味期限が3年の災害食のパンの缶詰「松の陽だまりパン」の商品開発を始めました。

予選審査での審査委員コメント

- 高校生らしい地域貢献であり、仮説検証をしっかり行い継続的に成果を出している。缶詰の原料を地元素材やエシカルなものにできればなお良い。
- 防災を切り口に、エシカルな消費のあり方を追求する多彩な取組を事業者等と連携して進める中で、自らが持続可能な社会の担い手として成長する様子が伝わってくる。
- 災害は「誰が遭ってもおかしくない」と考え、自分の身になって被災者のことを考えることの大切さを示してくれた。



学校名	金光学園高等学校
発表タイトル	ジーンズと将棋の聖地「倉敷」が生み出す中古ジーンズの新たな利用法

学校所在地 〒719-0104 岡山県浅口市金光町見新田 1350
 学校概要
 金光学園高等学校は、中高一貫教育の「金光学園中学・高等学校」の高校に当たる。金光学園は、明治27年創設以来、126年の伝統を誇り、地元から厚く支持を受けてきた。「心の教育を土台にした人間教育」という教育方針は現在にも受け継がれ、生徒一人ひとりが、「人をたいせつに自分をたいせつに物をたいせつに」という合言葉を実践して、本物の生きがいと個性の輝きを得られるよう努めている。

探究活動
 本校では中学生のときから探究授業を行っているが、特に高校2年生は自分の進路を見据え、積極的に学び、行動しようとする志を掲げた者が選択する授業枠となっている。理系・文系ともに複数のゼミに分かれている。
 今回のメンバーは、文系「地域学」のゼミ生であり、主に4人で活動している。4人とも語学堪能、学年でも成績上位に連なる本校のエース級の人材である。（応募者3人の制限があったので、女子3人がエントリーした。）
 4人とも Think globally, act locally. を正に実践している。たとえば地域の伝統文化だが後継者不足の盆踊り（白石踊）の担い手に志願し習得しつつ、文化継承について Hawaii やベルギーの研究者とオンライン会議を実施するなど、学際的に活動している。しかもこれは学校がお膳立てしたのではなく、生徒自らがコンテスト応募してチャンスを掴んだり、地域の人々と交流する中で自然発生的に声を掛けられたりしたものであり、真の探究姿勢の賜物である。彼らは倉敷市役所日本遺産推進室から活動費の助成を戴いているほか、笠岡市役所の公式HPに白石踊の活動報告記事を毎月掲載している。エシカル甲子園応募に当たっても、アパレル業界の構造や世界の発展途上国での労働搾取問題、環境負荷問題などの視点を持ちつつ、自分の住む地域でまず実行するという地に足の着いた姿勢で取り組んだ。

メンバー 全員高校2年生
 岡通こむぎ 三澤 葵 渡辺文奈（女子3人がエントリー）
 中藤浩文（一緒に活動しているがエントリーなし）



本校では、明治27年の創設以来、金光の教えをもとに「学・徳・体」一本の全人教育を行い、中学・高校生活の中で、多くのことを吸収し学んでいくことができる。

部活動、行事、探究授業、海外研修を含む国際交流事業など、生徒が熱中できるものがたくさんあり、伸び伸びと心の豊かさを育み、確かな学力を身に付けている。

また、本校校舎一部は、創設時に建設されたもので、部の活動場所として現在も使用し続けている。

予選審査での審査委員コメント

- 地域の特徴をよく活かし、地域の活性化にエシカル消費の視点から取り組んでいる。ジーンズと将棋を組み合わせ、商品開発を自ら行ったところは努力を感じる。
- 地元産業にヒントを得たジーンズポケットの再利用アイデアは、地域特性を活かした取組であり、高校生にとって身近な活動実践材料となっている。
- まだまだ試行錯誤が続いていると思われるが、唯一無二の地元の特産品に目をつけてアップサイクルに取り組み姿勢は素晴らしい。きっと素敵な商品開発と解決策に繋がるはず。



愛媛県最南端の町、愛南町にある農業科と普通科の学校である。

平成28年4月に、柑橘類では、全国の高校初のグローバルGAP認証を愛南ゴールド（河内晩柑）と甘夏で取得し、現在も継続している。

本年度は、地元企業とコラボし、「国際認証愛南ゴールド真鯛」を完成させた。愛南ゴールドのGAP認証と真鯛のMEL認証がコラボしたもので、持続可能な農業・漁業を目標に活動している。

予選審査での審査委員コメント

- 農業高校の強みを活かし、昨年までの取組を活かした形で、コロナ禍においてできることを考えだし、着実に活動を続けている点を評価したい。
- 地元の柑橘を世に広めるため試行錯誤し、味を極め、様々な地域での販売や交流、企業との連携まで広く深い活動がとても良い。この活動の先に、エシカル行動の変容や普及が見られることを期待する。
- 一番印象深かったのは、コロナ禍で需要が激減した地元水産業とコラボしようという取組。真摯に向き合っていると、災いも転じて福となるような可能性を自ら開くことに繋がるのだと勇気づけられた。

■ 表彰

- 内閣府特命担当大臣（消費者及び食品安全）賞
- 消費者庁長官賞
- 徳島県知事賞
- 徳島県議会議長賞
- 徳島県教育委員会教育長賞

■ 特別賞

- 日本エシカル推進協議会会長賞

■ 賞状紙

■ 藍染め和紙



阿波に脈々と受け継がれる、藍。
和紙を藍で染める。



染師 藤森美恵子

■ 副賞

■ 杉のトロフィー



神山町で、未来の子どもたちに少しでも多くの「しずく」を残したいと活動する神山しずくプロジェクトが製作。

杉を使うことで、人工杉のために減った地域の川の水を取り戻すきっかけ作りをしています。



■ エコバッグの制作

- 特定非営利法人 とくしま障がい者労働支援協議会 会員施設
社会福祉法人凌雲福祉会
就労支援センターハーモニー



■ 本選出場記念藍染タペストリー制作

- 徳島県立城西高等学校植物活用科阿波藍専攻班



城西高等学校植物活用科阿波藍専攻班は、タデアイの栽培から天然染料「すくも」の製造、そして藍染めとその商品販売に至る「阿波藍6次産業化プロジェクト」に取り組んでいます。

- 「AWA & OUR BLUE」という本校オリジナルロゴなどをあしらった本校オリジナルの本藍染め商品を販売しています。
- 「藍の種子ネットワークづくり」として、全国各地の染色愛（藍）好家の皆様に小さな城西大使（タデアイの種子）を全国津々浦々へ派遣（発送）しています。

■ 賞状揮毫

- 徳島県立名西高等学校芸術科書道コース



名西高等学校芸術科書道コースは、将来、書道の専門家となるために必要な、基礎的な能力を育てることを目標としています。生徒達は、作品の制作を通して、文字の持つ造形の面白さや多様な表現方法を理解するとともに、心豊かな人間性を身に付けるために日々努力しています。

- 第29回国際高校生選抜書展 **全国優勝**
日本最大規模の公募展「書の甲子園」において、国内外の約800の参加団体から1校のみに与えられる最高賞を今年度、徳島県で初受賞しました。

■ 大会進行

- 徳島市立高等学校放送部

第39回徳島県高等学校総合文化祭放送部門

アナウンス部門 第1位

1年 宮内 悠里 さん

大きなイベントで緊張しますが、聞く人に伝わりやすい司会をするように心がけて頑張ります。

アナウンス部門 第2位

2年 板東 愛樹 さん

司会のお仕事を頂き大変光栄です。出場者の皆さんを支えられるよう頑張ります。



- 徳島県立城ノ内高等学校放送部

第39回徳島県高等学校総合文化祭放送部門

朗読部門 第1位

2年 久次米 佳央里 さん

城ノ内高校では全校でエシカルについて学んでいます。その経験を活かしてより良い大会になるよう頑張ります。



- 徳島県立徳島北高等学校放送部

第39回徳島県高等学校総合文化祭放送部門

朗読部門 第2位

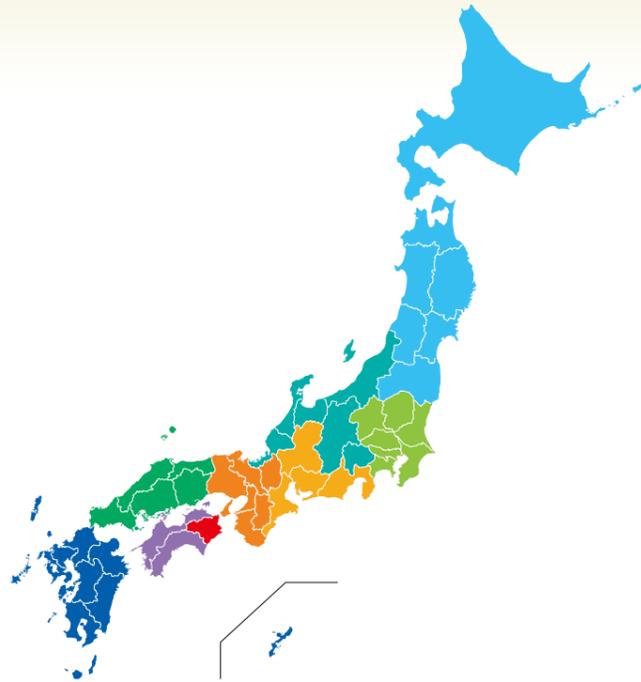
2年 田村 夢羽 さん

このように大きな大会で司会をするのは初めてで緊張すると思いますが、精一杯進行を務めさせていただきます。



参加申込数 87校

- 北海道・東北ブロック 8校
- 関東ブロック 12校
- 甲信越・北陸ブロック 7校
- 東海ブロック 7校
- 近畿ブロック 14校
- 中国ブロック 7校
- 四国ブロック（徳島県を除く） 6校
- 九州・沖縄ブロック 6校
- 開催県（徳島県） 20校



取組内容総括表

項目	学校数	学校数					
		5	10	15	20	25	30
地球環境	地球温暖・CO2等排出削減	6					
	食品ロスの削減	16					
	海洋プラスチック・ペットボトル	9					
	エコバッグ・レジ袋詰め合わせ	11					
	3R運動（分別・減量化を含む）	19					
	森林保全・放置竹林・木材利用	4					
	水質保全	3					
	農業生産・オーガニック・農薬削減	11					
	鳥獣被害対策	5					
	水産資源	5					
人・社会	フェアトレード	9					
	寄附付き商品	1					
	障がい者の活躍（授産品、就労）	8					
	外国との交流	5					
	エシカル・ファッション	5					
	途上国支援	2					
	貧困（フードバンク・子ども食堂等）	4					
被災地応援	7						
地域活性化	地産地消	25					
	商品開発	31					
	商店街や地域の賑わいづくり	13					
	暮らし（交通安全・防災等）	12					
	伝統工芸産業	14					
他	歴史・伝統食・伝統文化	17					
	エシカルの普及啓発	9					

※予選申込校の審査資料に基づき取組内容を事務局で分類したもの
 ※複数項目の取組の学校があるため学校数の合計は 87 ではない

中原氏

エシカルに関する領域は SDGs 同様多種多様です。
 皆さんが持続可能な社会の一員として大切だと考える分野での活動を期待します。

加渡氏

エシカル消費には明確なルールはありません。
 「これが私たちのエシカルだ！」という新たなエシカル像を創り上げてみましょう。

原田氏

簡潔にわかりやすく思いを「伝える」という部分でも相手への思いやりのエシカルを忘れずに。
 人の心に響く、共感を生む技も大事に。

末吉氏

取組に一貫性があるか、取組を通じて心にどんな変化が生まれたのか、学校や地域における変容があったかも省みることが大切です。

坂倉氏

地域の多様な主体との連携を更に深め影響力発揮と活動の広がり、及び学校内や下級生を更に巻き込み今後の継続的活動を期待します。

大山氏

次世代を担う皆さんがリードする新たなトレンドとして、このエシカル消費が具体的な行動変容に繋がっていく取組を期待します。

島田氏

どんどん地域に出て、高校生や住民の皆さん、消費者団体、事業者や自治体を巻き込もう。
 必ず誰かの心にエシカルの火がともるはず。

藤田氏

社会で行われているエシカル活動を実践するだけでなく、大人には考えつかない視点や発想をもっと追求して欲しいと思いました。

河井氏

次年度も取り組む場合、テーマを早期に設定し、PDCA をまわす。
 C 評価、A 改善のプロセスにより、更に考える場をつくる。

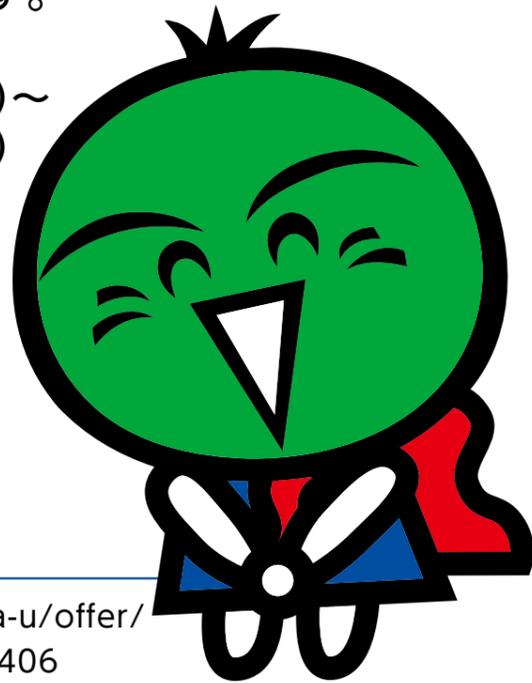
岡島氏

商品開発にあたっては、科学的な検証と安全性の確保が必要である。
 活動の方向性を定め、より効果的な成果に繋げてほしい。

「エシカル甲子園 2020」本選に
御参加・御視聴いただき
ありがとうございました。

以下のURLまたはQRコードよりアンケートへの
御協力をお願いいたします。

実施期間 令和3年3月26日(金)～
令和3年3月31日(水)



URL
[https://s-kantan.jp/pref-tokushima-u/offer/
offerList_detail.action?tempSeq=5406](https://s-kantan.jp/pref-tokushima-u/offer/offerList_detail.action?tempSeq=5406)

次年度も、多くのみなさんの参加並びに
観戦をお待ちしております。